

ローカル版「知的対流拠点」づくり マニュアル

～多様なヒト、モノ、アイディアのマッチング
の場を拠点とし、地域資源を活かした内発的な
「しごと」の創出・発展に向けた稼げる地域づくり～

平成29年3月

国土交通省国土政策局

このマニュアルは、平成 28 年度に国土審議会計画推進部会に設置された「稼げる国土専門委員会」において、「国土形成計画（全国計画）（平成 27 年 8 月 14 日閣議決定）」に掲げられた「地域発イノベーションを創出する『知的対流拠点づくり』の推進」に係る検討を行い、とりまとめたものです。

〔専門委員会委員〕

畦地 履正	株式会社四万十ドラマ	代表取締役社長
今村 まゆみ	観光まちづくりカウンセラー	
久間 敬介	株式会社日本政策投資銀行地域企画部	課長
○坂田 一郎	東京大学政策ビジョン研究センター	長
高田 昌彦	コマツ経済戦略研究所	主幹(兼)企画・渉外グループGM
中川 雅之	日本大学経済学部	教授
新田 大介	日本商工会議所地域振興部	課長
東出 康宏	株式会社日立製作所社会イノベーション事業推進本部	
	サービス統括本部 サービス事業推進本部	担当本部長
藤沢 久美	シンクタンク・ソフィアバンク	代表

委員は五十音順、敬称略、○印は委員長、
所属・役職等は平成 29 年 3 月末時点

〔事務局〕

国土交通省国土政策局総合計画課 都市・産業班

本マニュアルの作成にあたり参考とした先行事例

(1) 農産品等の活用

- ①限界集落と言われた地域が地域産品で10億稼ぐ地域に!! (四万十町) … i
- ②日本の甲州が世界のKoshuへ「ワインで真価を発揮する地域」(甲州市等) … ii
- ③いつもの食材がヘルシーだった「食」と「健康」で新たな価値を生み出す地域(江別市) … iii

(2) 自然や文化等の観光資源の活用

- ④南信州全体で160のエコツアープログラム 年間5.5万人を集客!! (飯田市等) … iv
- ⑤スポーツを核に島まるごと資源で活性化を目指す(佐渡市) … v
- ⑥アートも資源、空き家も資源 3.6千人のまちに6千人が訪れる(養父市) … vi

(3) ものづくり集積・産地の活用

- ⑦伝統漆器に新たな息を “kawatsura SHI-KI” が産まれるまち(湯沢市) … vii
- ⑧眼鏡づくりの先端技術で「作って『売る』産地」へ(鯖江市) … viii
- ⑨世界に誇るデニム産地の一体的なPR(福山市等) … ix
- ⑩地域に集積する技術を活かし航空機産業に挑戦 未来に羽ばたく地域(新潟市) … x
- ⑪企業誘致ではなく内発型振興 地域の新たな産業支援モデル(上田市等) … xi

(4) 大学等の研究成果・技術の活用

- ⑫世界最先端研究と新産業創出の拠点で世界の人材を惹きつける(鶴岡市) … xii
- ⑬バイオの一大集積でアジアを巻き込む“Fukuoka Bio Valley”(久留米市) … xiii

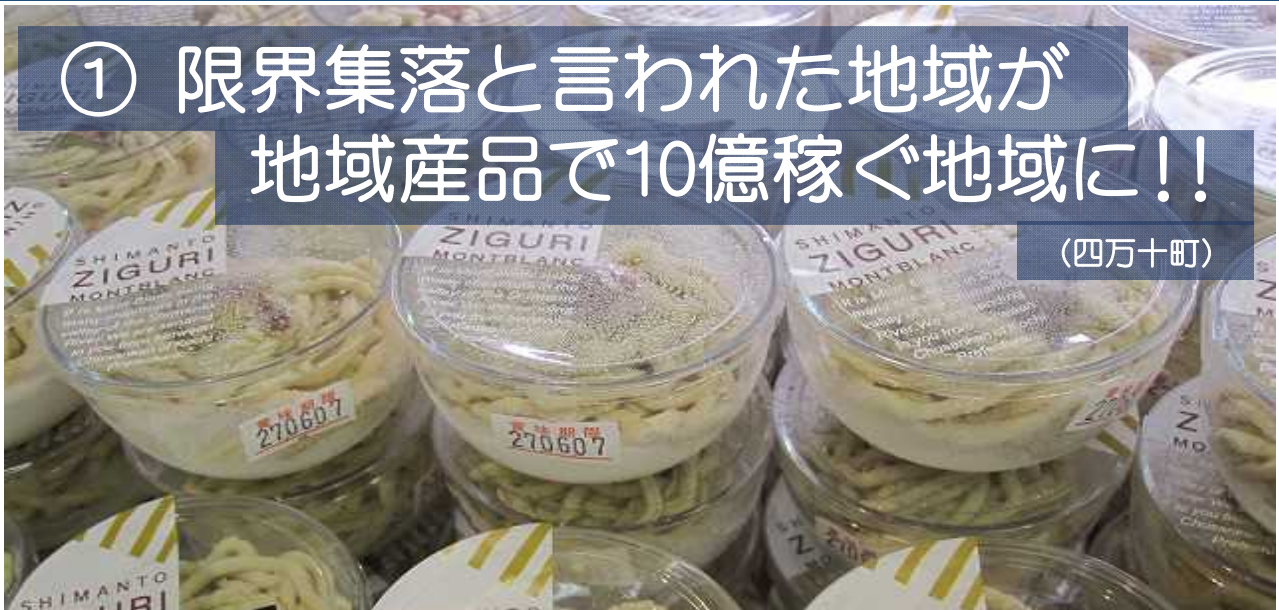
※各事例のより詳細な内容については、稼げる国土専門委員会の第1回から第3回までの資料(第1回:資料5、第2回:資料4、第3回:資料4)を参照ください。

(稼げる国土専門委員会URL)

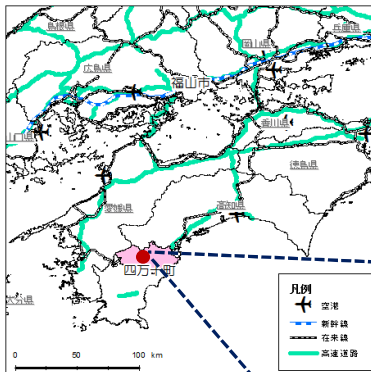
http://www.mlit.go.jp/policy/shingikai/s104_kasegerukokudo01.html

① 限界集落と言われた地域が 地域産品で10億稼ぐ地域に！！

（四万十町）



【しまんと地菓モンブラン】（写真提供：四万十町）



稼げる地域づくり

- （株）四万十ドラマを中心に、地元農家、加工業者、住民、町、域外専門家などが結束。
- 道の駅を拠点に、地域産品と人と技術・知恵を組合せ商品を開発・販売する仕組みを醸成。
- 産地として衰退していた栗など地域のあたりまえが強みであることに再注目。地域産品で売上10億円を目指す。



【道の駅四万十とおわ】生産者の顔が見える直売所、オリジナル商品の販売、地元素材を使った食を提供する食堂。地元農家、住民等が集い、ここで新しい商品が生まれる
（写真提供：四万十ドラマ）

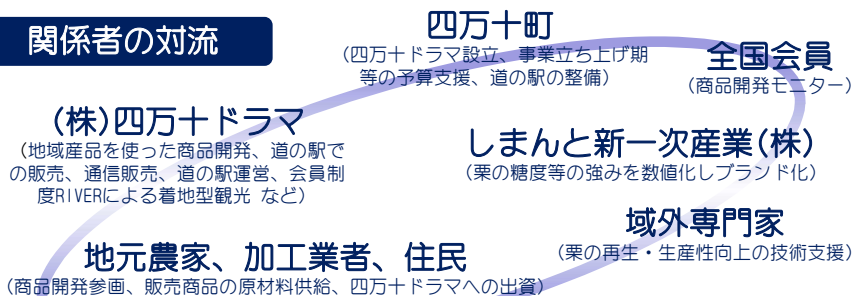


地元ではあたりまえの無農薬野菜や手摘みのお茶が価値ある商品に
（写真提供：四万十町）



【しまんと地菓】大粒で糖度の高い地元の栗をブランドに
（写真提供：四万十町）

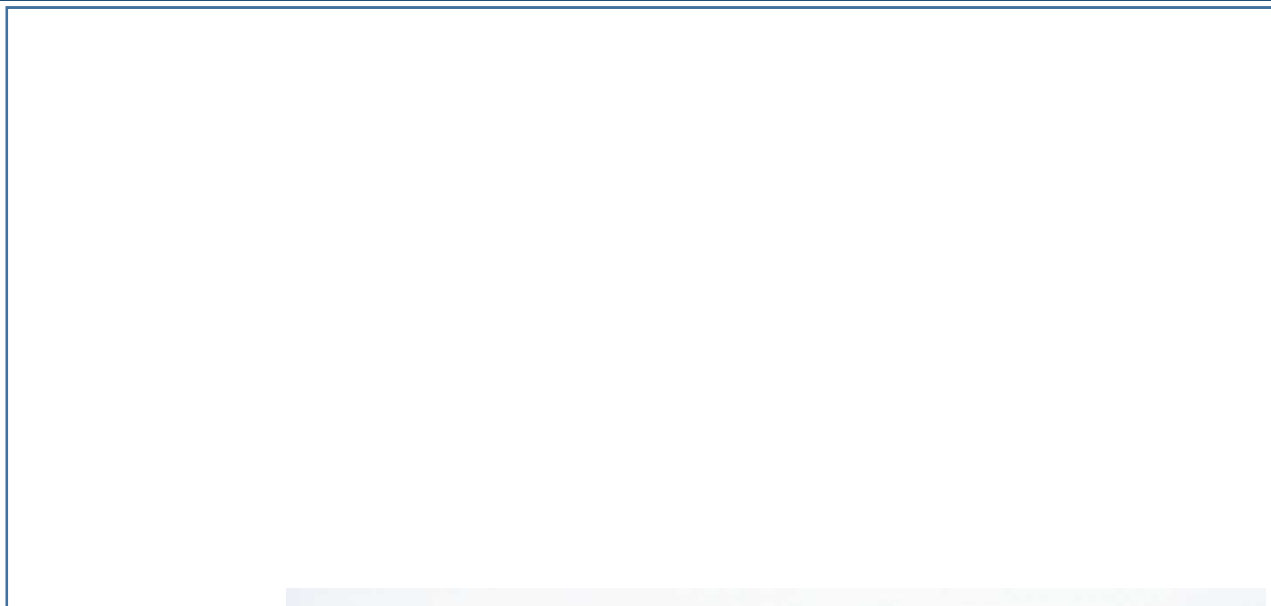
関係者の対流



コーディネート役

（株）四万十ドラマ

（地元農家、地域内外の加工業者等の巻き込み、道の駅や大都市の大手百貨店での販売を通じた地域ブランディング など）



(写真提供：甲州市)

稼げる地域づくり

- 甲州市のコーディネートで、地域に集積するワイナリー、地元大学、県が連携。
- ブドウの品種改良、醸造技術開発、マーケティング等で甲州ワインに磨きをかけブランド化。国内外への輸出。併せて「ぶどうの丘」を拠点に甲州へ人を呼び込む。



【ぶどうの丘】
美術館・資料館、レストラン、ホテル、物販等の機能を備えた観光交流の拠点 (写真提供：甲州市)



写真上：ぶどうの丘にある地下ワインカーブ。館内ではワインを飲み比べて好みのワインを選び、購入することができる

写真下：甲州市内ワイナリーが醸造するワインの中から、品質審査会で合格したワインがぶどうの丘で販売される
(写真提供：甲州市)

関係者の対流

甲州市

(廃止トンネルを活用したワイン貯蔵施設整備によるワイナリー支援、ぶどうの丘整備・運営によるマーケティング展開支援、認証制度制定)

山梨大学ワイン科学研究センター

(ブドウの品種改良、栽培技術改良、醸造酵母等の研究、ワイン製造・ブドウ栽培・経営の高度人材育成)

地元ワイナリー

(ワイン専用ブドウの自社栽培、ワイン醸造技術の共有化、地域資源を活かしたワインツーリズム)

山梨県

(ワイン産業振興特区、日本ワインコンクール開催、地理的表示制度「山梨」取得)

コーディネート役

甲州市

(ぶどうの丘運営によるワイン産地としての情報発信を通じた地域ブランディング、マーケティング展開支援、域外観光客受け入れ)

